



練馬区立上石神井中学校
第二学年 学年便り【第15号】
令和7年11月11日 発行



～ 天の時 地の利 人の和 ～

素 晴らしい作品の数々

国語の時間「自分の好きな漢字」をテーマに書いた書写の作品。放課後、各クラスの国語係がきれいに掲示してくれました。達筆で書かれたものや「なぜこの漢字を選んだんだ？」というユニークな作品など、個性溢れる作品に廊下を通る人たちが足をとめていきます。どれも素晴らしい作品ですが、その中から担任が選んだ一押し作品を紹介します。どのクラスの担任も「あれもいいな」「これもいいな」と悩んでいましたが、ここでは一点だけ紹介します。作品を書いた生徒に、なぜその言葉を選んだのかをインタビューしてみました。(作品裏面)

🔪 2年A組 さん 『銀河』

「理系の言葉がいいなと思って選びました」

🔪 2年B組 さん 『凌駕』

「言葉の意味がかっこいいから」

🔪 2年C組 さん 『紅葉』

「この季節のもので、見たいなという気持ちも込めて」

🔪 2年D組 さん 『英雄』

「言葉の意味がかっこいいから」

道 徳地区公開講座『満天の星』

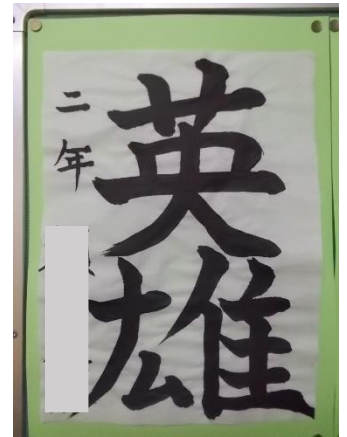
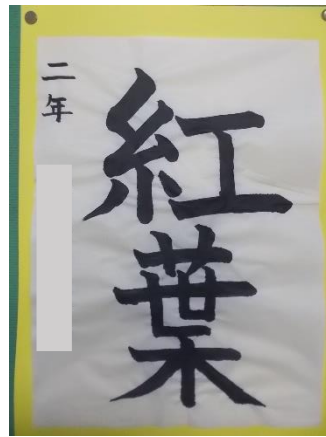
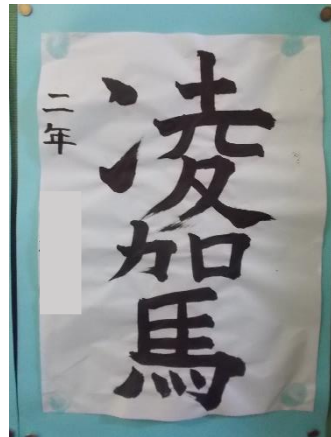
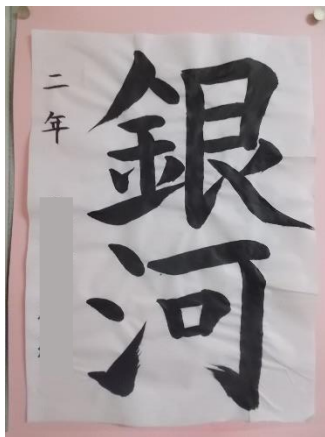
11月8日(土)、道徳地区公開講座がありました。今年は、映画監督の葦沢恒(あしざわこう)さんを講師にお迎えし、葦沢さんが制作した『満天の星』という90分の映画を観ました。戦時下の1944年8月、那覇港を出発した

疎開船の“対馬丸”がアメリカの爆撃に遭い沈没しました。1500人近い人々が犠牲となり、そのほとんどが武器を持たない民間人や子どもたちでした。大変悲惨な出来事ですが、“対馬丸”の名を知っている人は多くありません。当時対馬丸に乗っていて奇跡的に助かった方々へのインタビューなどを通して、今を生きる私たちに大切なことを伝えようとしているこの映画は、中学生にも深く何かを感じさせたのではないかと思います。生徒の感想を、ここでいくつか紹介します。

私は『満天の星』を観るまでは、対馬丸事件について全く知りませんでした。疎開を楽しみに貨物船に乗っていた児童もいる中、潜水艦からの魚雷を受けて夜の海に投げ出され、もがき苦しんだ幼い子供たちの姿を思うと、とても胸が痛みます。女性、子供、老人を疎開させた理由、事故が起こったときの軍の対処の事実を知ったときは驚愕しました。戦時中是一般人の命なんて、どうでもよかったのか。そもそも、どうして日本は戦争をはじめたのか。今回、この作品を観て、強く思いました。私は『満天の星』を観て、対馬丸事件のことについて、知ることができて良かったです。

先日はこのような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

私自身、「対馬丸」を知りませんでした。あんなに悲しいことなのに知らなかったのが、恥ずかしいくらいです。けれど、今回の体験で「対馬丸」についてよく知れました。また、ウクライナの戦争の話もありましたが、「対馬丸」にもつながっていると思います。「対馬丸」は子どもの夢が壊され、ウクライナでは夢が自然に制限されていく。こんな世の中があっているのかと私も思います。



今後の予定

11 月	17日(月)	生徒朝会
	19日(水)	部活動再登校
	20日(木)	校外学習 〰
	21日(金)	中央委員会
	24日(月)	休日
	26日(水)	クリーン運動